ZAMZAM 152

世界のティーンのための雑誌

新しい時代へ。

人々
場所
文化
アイデア
そして、もっと
明るい明日へ

ペルシャ湾

イランの、時を超える青





ZAMZAMをつくる人々

監修
ホセイン・ディーヴサーラール博士

運営責任者
マフディー・ファイヤーズィー

編集長
ゼイナブ・ザーエリー

業務統括・広報責任者
マルヤム・ハムゼルー

イラスト監修・メインイラスト
モハンマド・ハサン・プールザンド

漫画イラスト
アリーレザー・ヘンマティー

文芸編集
バハール・ナーデリー

デジタル・インタラクティブ出版
アミール・アルデスターニー

電話
+ 02188934302
+ 02188934303

ウェブサイト
www.alhodapub.com

メール
alhodapub@gmail.com

FAX
+ 02188917770



目次

海辺から星空へ、旅に出よう。

02 **ZAMZAMをつくる人々**
制作チームを紹介

03 **目次**
今号の内容

04 **旅のはじまりに**
編集長から

05–10 **ペルシャ湾**
波の一つひとつに物語がある

11–12 **ブーシェフル**
海に向き合う街

13 **アーブ・ドゥーグ・ヒヤール**
ボウルに広がる夏

14 **ビールーニー**
今月の科学者

15 **フワーリズミー**
代数学の父

16 **シャフリヤール**
ペルシャの詩

17 **シャムスとモウラヴィー**
詩を変えた出会い

18–23 **本が大好きだから**
マジードの漫画

24–25 **自然と野生の生き物**
ハラーのマングローブ

26 **イランの音**
ブーシェフルのリズム

27 **映画の時間**
『スズメの歌』

28 **本との出会い**
英語で読むイランの物語

29 **生きるためのヒント**
よりよい質問をするコツ

30 **私の世界＋絵で遊ぼう**
見て、考えて、発見しよう

31–32 **意外なイラン**
驚きの物語と豆知識

33–34 **一つの言葉、一つの世界**
ペルシャ語の言葉をじっくり見る

35–36 **壁のない博物館**
ナスィール・アル・モルク・モスク

37–38 **イランでつくられたもの**
アイデア、工芸、革新

39 **イランの声**
10代が語る、等身大のイラン

40–41 **海で生きる**
イランの船乗りにインタビュー

42 **ミーナーブ**
鳴らなくなった学校の鐘

43 **クーヘスタク**
喜びが悲しみに変わるとき

44 **同じ地平線、もっと大きな夢**
裏表紙のポスター

同じ地平線から、もっと輝く物語へ♡



編集長から



海辺から星空へ、旅に出よう。

どんな旅も、一つの問いから始まります。
地平線の向こうには、何があるのでしょうか。

私にとって、今号をつくることも一つの旅でした。向かったのは南、何世紀もの記憶をたたえるペルシャ湾です。その道のりで出会った物語、人々、アイデア、場所が、イランを新しい、思いがけない角度から見せてくれました。

発見のために、いつも遠くへ行く必要はないと思います。立ち止まって、身近にあるものをよく見つめる。そこから始まる発見もあるのです。

このページを通して、皆さんが新鮮な目でイランを見つめ、まだどんな発見が待っているのだろうと、想像を広げてくれたらうれしいです。

地平線は、見える世界の終わりではありません。
想像できる世界の始まりなのです。

心をこめて

ゼイナブ・ザーエリー♡

ZAMZAM編集長

素敵なアイデアで、輝く人に♡

イラン
人々
場所
文化
アイデア
明日

新しい場所、
新しい見方。
変わらない私。♡

たくさんの人々、
たくさんの物語。
同じ青い海。♡

ペルシャ湾

人々
場所
文化
歴史
自然
アイデア
あなた

波の一つひとつに、物語がある

朝日とともに、ペルシャ湾は目を覚ます。船が海を行き交い、岸辺では人々の暮らしが動き出し、物語が向こう岸の人々へとつながっていきます。

何千年もの間、この海は、ただ水が広がる場所ではありませんでした。文化やアイデア、夢が出会う場所だったのです。



海がつなぐ世界

波を越えて、人々、場所、アイデアがつながる。

何世紀も前のイランの港に立っているところを想像してみてください。港は活気にあふれ、船乗りたちが声を掛け合っています。潮に乗って木造船が到着し、商人たちは遠い岸辺から運んできた香辛料、布、真珠、陶器を荷下ろししていました。

アラビア語、ペルシャ語、ヒンディー語、スワヒリ語など、さまざまな言葉が飛び交っていました。多くの土地から来た人々が出会い、交易し、考えを分かち合ったのです。ペルシャ湾は、昔から人々をつなぐ場所でした。

港はイランとアジアやアフリカ、さらにその先の地域を結びました。海を渡ったのは品物だけでなく、知識や物語、音楽、伝統も同じです。その共通の歴史は今も、古い港町の建築、海辺の音楽のリズム、木造船をつくる技、海とともに暮らす人々の多彩な文化に息づいています。

狭い海峡が、世界をつなぐ♡



かつてここを渡った、商人、探検家、アイデア



さまざまな人々、同じ海♡

航路
文化
人々
アイデア
可能性
ともにつくる明日

同じ海、
新しい物語。
いつもつながっている。♡



ペルシャ湾は、私たちみんなをつなぐ

時を超えて受け継がれる名前

地図は変わっても、物語は残る。

地図に書かれた名前は、ただの短い言葉に見えるかもしれません。でも、その言葉には、何世紀もの地理や歴史、記憶が込められていることがあります。

ペルシャ湾は何千年もの間、この名前で知られてきました。世界各地の地図や本、旅人たちの言葉に登場します。古代ギリシャの地理学者から、アラブ、インド、中国、ヨーロッパの著述家まで、「ペルシャ湾」という名前は受け継がれてきたのです。

現在、「ペルシャ湾」は国際連合が使用する標準的な地名であり、国際的にも広く認められています。単なる呼び名を超えて、それは実在する場所、共有する歴史、そして岸辺で暮らし、交易し、共同体を築いてきた多くの人々と文化を表しています。

世界が変わっても、その名前は残ります。私たちの過去と現在、そしてともにつくる未来を結ぶ橋として。

地図は違っても、
物語は同じ ♡



ペルシャ湾

真珠、人々、そしてみんなの海

宝物以上の価値



今、ペルシャ湾の真珠の物語は、伝統と技術を結びつけています。何時間も素潜りをする代わりに、訓練を受けたダイバーは、最新の装備や船、GPS、ソナー、水中カメラを使い、真珠を育む貝の生息地をより安全に探し、調べることができます。

天然真珠は、人の手を加えずに貝の中で生まれ、とても珍しいものです。養殖真珠も貝の中で育ちますが、その始まりには専門の技術者の手助けがあります。真珠の種類に応じて、技術者が慎重に材料を入れ、貝が真珠層をつくるよう促します。その層が少しずつ重なって、真珠になるのです。

最新の道具は、ダイバーの安全を守り、研究を支えます。でも、貝の生息地を健やかに保つには、きれいな水、丁寧な観察、責任ある取り組みが欠かせません。生息地を守ることは、海の生き物を支えると同時に、ペルシャ湾の長い真珠採りの伝統を未来へ受け継ぐことにもつながります。

1. 地図にする
GPSとソナーで貝の生息地を調べる

→ 2. 潜る
訓練を受けたダイバーが最新の装備を使う

→ 3. 調べる
研究者が貝の健康を確認する

→ 4. 守る
継続的な観察で健やかな海を支える







同じ海
新しい道具で
もっと明るい明日へ



伝統は生き続ける

最新の方法で道具は変わっても、
思いは変わりません。人と海の深いつながりを
大切にしながら、ペルシャ湾のより
持続可能な未来を目指します。

イランの
隠れた森

ハラー

海に浮かぶ森

陸と海が出会う場所に、
不思議な森が育っています。
イラン南部の海岸に広がる
ハラーのマングローブは、
驚くような野生の生き物と
独特の生態系のすみかです。
ここでは、木々、水、生き物が
深くつながっています。

潮は変わっても、
命はつながり
続けます。

ちがう世界。
でも、同じふるさと。



たくさんの鳥たちにとって
安全なすみかです。

1 幼い魚の
隠れ家

2 鳥たちの
すみか

3 海岸を
安定させる根

4 陸と海が
出会う場所

水路を
探検しよう!

小さな生き物。
大きな役割。

水の中では

この根は魚たちの
育つ場所をつくり、
多くの海の生き物を
守っています。



ハラーのマングローブ
ゲシュム島
イラン・ホルモズガーン州

ハラーは、ただの森では
ありません。陸と海、
二つの世界をつなぐ
生きた橋です。
探検し、大切にし、
未来のために守って
いきましょう。

自然が
わたしたちを
つないでくれます。

生きている海

ペルシャ湾の水中の命

ペルシャ湾は、命が息づく世界です。
温かく浅い海には、小さなプランクトンから色鮮やかな魚、カニやイルカ、長い年月を重ねたサンゴ礁まで、驚くほど多様な生き物が暮らしています。
この独特の環境は、海辺の暮らしや食を支え、豊かな自然の遺産を育んでいます。
その健やかさを守るために、海を理解し、行動することが必要です。



小さな生き物、大きな役割



微小な植物プランクトンは、とても小さな生き物ですが、海の多くの食物網の土台です。植物と同じように、太陽の光を使い、成長する過程で二酸化炭素を吸収します。

とても小さな命。
とても大きな役割。

独特の環境

ペルシャ湾は浅く、塩分が高く、温かい海です。こうした条件は、海の生き物にとって厳しくも豊かなすみかを生み出します。サンゴ礁や海草、多くの生物がともに、特別な生態系を形づくっています。

直面する課題

汚染、海水温の上昇、沿岸開発、魚の取りすぎが、海の生き物を脅かしています。でも、希望はあります。研究や環境に配慮した取り組み、意識の広がりを通して、未来の世代のためにペルシャ湾を守ることができます。

サンゴ礁
多くの生き物のすみか

海草
幼い魚の育つ場所

魚
豊かな種の多様性

イルカ
食物網の頂点にいる捕食者

私たちにできること

- 浜辺や海をきれいに保つ。
- 持続可能な水産物を選ぶ。
- 海の生き物のすみかを大切にする。
- 大切さを伝える。

小さな行動。
変化の大きな波をつくろう。





「今日、より健康な
ペルシャ湾が、
より明るい未来をつくる。」



ブーシェフル

活気あふれる街！♡

思っている以上に、魅力いっぱい

1 のんびり過ごそう

モダンなショッピングセンター、居心地のよいカフェ、楽しいスポットが、ブーシェフルをくつろぎ、友だちと過ごし、そして一日を楽しむのにぴったりの場所にしてくれます。



2 街を探検

カラフルな通りを歩きながら、昔ながらの家々や暮らしを見てみましょう。いつも新しい発見が待っています！



3 ここに注目

あちこちを見回してみて！伝統的な窓や木の扉から、美しい芸術作品、たくさんの緑のある場所まで、ブーシェフルには特別で個性的な建物が見つかります。



4 知っていた？

ブーシェフルは海だけの街ではありません。ショッピングモールや、クリエイティブなコミュニティ、お祭り、芸術、そして豊かな歴史がある、生き生きとした街です。



5 街の空気を感じよう

芸術、音楽、地元のイベント、そして親切な人々が、ブーシェフルに特別な雰囲気をつくり出しています。いつも何か楽しいことが起こっています！



6 あなたの居場所

ショッピング、食べ物、歴史、それともただ外で過ごす時間が好きでも、ブーシェフルにはあなたにぴったりの何かがあります。



同じ街。新しい見方。♡

新しい場所
新しい出会い
新しい物語
変わらない素晴らしい
イラン♡

ブーシェフルの一日

ブーシェフル

海辺に息づく歴史

古い壁。
青い空。
新しい物語。♡

ブーシェフルは、歴史、文化、太陽の輝き、そしてやさしい人々が混ざり合った特別な場所です。このガイドにそって、この街を歩きながら、過去と今が隣り合う、いきいきとした暮らしを発見してみましょう。

歩いて
見つけて
味わって
体験しよう♡

1 午前 9:00

ブーシェフルの旧市街を歩こう

1日を、歴史が感じられる旧市街から始めましょう。せまい路地、色とりどりの扉、伝統的な家々を歩いてみましょう。見上げたり、まわりを見渡したりすると、どの角にも物語があります。

同じ土地。
ちがう時代。

2 午前 10:30

デフダシュティー邸へ

デフダシュティー邸の中に入りましょう。この邸宅はガージャール朝時代に、ハージ・ゴラームホセイン・デフダシュティーという石油商人のために建てられました。中央の中庭、木製の窓、風通しのよい部屋があり、ブーシェフルの古い建築の特徴をよく伝えています。現在は、ペルシャ湾医学史博物館として使われています。

ここで
歴史が生きています!

イラストはブーシェフルの歴史的な建築様式をもとにしています。

3 午後 12:30

古いバザールを探検

さあ、古いバザールを探検する時間です！　布地、手工芸品、デーツ、スパイス、工芸品が並ぶにぎやかな路地を歩いてみましょう。地元の人々の暮らしの音や香りも感じられます。ブーシェフルの文化を体験できるすばらしい場所で、特別なおみやげを見つけられるかもしれません。

色とりどりの
品々、スパイス
人々の暮らし
物語♡

4 午後 5:30

海辺でひと休み

海で1日をしめくくりましょう。海辺を歩き、ボートを眺め、心地よい風を感じながら、ペルシャ湾の夕日を楽しみましょう。リラックスするのにぴったりの場所です。友だちとおしゃべりしながら、美しい景色を眺めて、のんびりとした時間を過ごしましょう。

やさしい人々
美しい夕日♡

帰る前に、ぜひ味わって…



新鮮な魚介



伝統の冷たい飲み物



ナツメヤシのお菓子

豆知識!

ブーシェフルの歴史的な建築様式は、何世紀にもわたる交易の歴史を反映しており、インド、アラビア、そしてヨーロッパからの影響と、地元のイランのデザインが組み合わさっています。

出かける前に

- ベストシーズン：秋から早春
- 持ち物：水、日よけ、カメラ
- 服装：薄手の服と歩きやすい靴
- マナー：地元の人々の暮らす街です。清潔に、思いやりをもって。

ちがう人々
同じ故郷。♡

— 食 —

アーブ・ドゥーグ・ヒヤール

ボウルに広がる夏

シンプルな材料で驚くほどおいしい！

新鮮でヘルシーイランのおいしい味

さわやかでクリーミー、
そしてフレッシュな味わいの
アーブ・ドゥーグ・ヒヤールは、
イランで最も愛されている
夏の料理のひとつです。
作り方はとても簡単で、
ヘルシーで、驚くほど
さっぱりしています。
暑い日にぴったりです！

おいしい食事で毎日をもっと明るく

イランの夏の味わい

材料

- プレーンヨーグルト 2カップ
- 冷水 1/2〜1カップ
- 小さめのキュウリ 2本
- 生のミント・バジル・ディル 大さじ3
- クルミ 大さじ2
- レーズン 大さじ1（お好みで）
- ちぎった平たいパン 1〜2枚
- 塩
- 黒コショウ
- 氷 少量（お好みで）
- 乾燥バラの花びら（お好みで）

作り方

1 よく混ぜる



ボウルにヨーグルトを入れ、冷水を少しずつ加えながらよく混ぜて、なめらかでクリーミーになるまで混ぜます。

2 刻む



キュウリを細かくさいの目に切り、フレッシュなハーブを刻みます。食べるときにスプーンですくいやすい大きさにし、具材のバランスがよくなるようにします。

3 合わせる



切ったキュウリ、ハーブ、クルミ、そしてお好みでレーズンをヨーグルトの混ぜたものに加えます。塩と黒コショウで味をととのえ、全体をよくかき混ぜます。

4 仕上げる



食べる直前に、ちぎったパンと少量の氷を加えます。お好みで、乾燥ミント、クルミ、バラの花びらをのせると、さらにおいしくなります。

はじめてのコツ

- 水は少しずつ加えましょう。
- 後から薄くするのは簡単ですが、もう少し濃くするのはむずかしいです。

自分好みに！

- ギリシャヨーグルトを使うと、より濃い食感になります。
- 乾燥ミントをひとつまみ加えましょう。
- 砕いた氷を入れると、さらにさわやかになります。
- バラの花びらをのせると、特別な一品になります。

こんなときに

- ✓ 軽いランチに
- ✓ 暑い夏の日に
- ✓ 家族や友だちと楽しむときに
- ✓ イランの味わいを発見したいときに

同じ材料でいろいろな物語が生まれます。

ビールーニー

好奇心で、世界をもっと広く

1,000年以上も前、ホラズム地方のカースという町で、アブー・ライハーン・ビールーニーという少年が生まれました。彼は世界についての質問をし、答えを求めて成長しました。生まれ故郷は、現在のウズベキスタンにあります。

答えをそのまま受け入れず、証拠を探した。

ビールーニーは、イランの学者であり、当時を代表するすばらしい科学者の一人でした。彼は、空、大地、さまざまな言語、文化について学びました。

何を研究したの？

天文学
星、惑星、日食、月食、そして暦について。

数学
複雑な問題や新しい方法について。

地理学
地球の半径と地理上の座標について。

言語
さまざまな文化を理解する助けとなった言語について。

文化
さまざまな人々の習慣や信じることについて。

自然科学
鉱物、薬用植物、そしてそれ以外のことについて。

地球の大きさを測る



ビールーニーは、山の高さと、地平線と見える水平線との角度を使って、三角法により、何世紀も前に地球の半径を推定しました。これは、人工衛星や飛行機が登場するよりもずっと前のことです。

旅して、学んで、伝える



ビールーニーは長年にわたりインドを旅して研究しました。彼はサンスクリット語を学び、インドの科学、宗教、習慣について書き、そして日々の生活についても記しました。

ウィーンのビールーニー

ビールーニーの像は、オーストリアのウィーン国際センターにあるペルシャの学者のパビリオンに立っています。このパビリオンは、2009年に、イランから、4人のすぐれたイランの学者をたたえるために寄贈されたものです。ビールーニーは、地球儀を持ち、地理学と天文学における彼の仕事を表しています。

記念碑をもとにしたイラスト。

科学と歴史

フワーリズミー
代数学を築いた頭脳

今から1,200年以上も昔、ムハンマド・イブン・ムーサー・フワーリズミーは、人々が数学の問題を解く方法を変え、世界中で数学の発展に影響を与える、わかりやすい手順の方法を生み出しました。

一歩ずつ。大きな考えへ。

数学で、より明るい世界をつくる

数学
天文学
地理学
よりよい世界のための知識

難しい問題を、整理された手順に変えました。

ムハンマド・イブン・ムーサー・フワーリズミー
780年頃 ～ 850年頃
ペルシャの数学者・天文学者・地理学者

ホラズムからバグダードへ

フワーリズミーはおそらく中央アジアのホラズムで生まれました。その後、当時世界で最もすぐれた学問の中心地の一つであったバグダードで働きました。



ホラズム
生まれた場所

バグダード
彼の学問的な仕事の中心地

名前からアルゴリズムへ

彼の名前は、ラテン語でAlgoritmiと書かれました。やがてこの名前は、問題を解くための手順のはっきりした方法、つまりアルゴリズムという言葉のもとになりました。

フワーリズミー → アルゴリズム



アル・ジャブルから代数学へ

フワーリズミーは、有名な書物の中で一次方程式と二次方程式を解くための体系的な方法を示しました。この本の題名にある「アル・ジャブル」という言葉が、代数学（アルジェブラ）の語源です。

アル・ジャブル → アルジェブラ（代数学）

彼は何もないところから代数学を作ったのではなく、それ以前の考えを整理し、体系的な学問分野にまとめるのを助けました。



数字の旅

フワーリズミーは、インド・アラビア数字について書きました。その後、これらの数字は、算術に関する書物のラテン語訳を通してヨーロッパに広まりました。



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

彼がゼロを発明したわけではありません。数学の体系はインドで発展し、さまざまな文化の学者に研究され、伝えられました。

両辺のつり合い



$x + 3 = 7$

両辺から3を引く。

$x = 4$ ★

方程式はつり合いのとれたはかりのようなものです。片方で行ったことは、もう一方でも同じことを行う必要があります。

数学だけではない

天文学
天文表をまとめました。

地理学
多くの場所の座標をまとめ、地理のデータを改良しました。

数学
算術と代数学のための体系的な方法を発展させました。

なぜ大切なの？

アルゴリズムは、コンピュータ、スマートフォン、ゲーム、地図、検索エンジンなどが、問題を一つずつ手順に沿って解くのを助けています。



彼の考えは、今でも古代の学問と私たちのデジタルの世界をつなげています。

何を学べる？

- ✓ 大きな問題をより小さな手順に分ける
- ✓ 自分の方法をはっきり説明する
- ✓ 異なる文化から学ぶ
- ✓ 自分の答えをたしかめる
- ✓ 自分のアイデアを向上させ続ける

★ 異なる文化。共有される知識。

豆知識！

1. 「アル・ジャブル」という言葉は代数学から来ています。
2. 「アルゴリズム」という言葉はフワーリズミーにちなんでいます。
3. 彼はイスラームの黄金時代にバグダードで働きました。
4. 彼は天文学と地理学にも取り組みました。
5. 彼の数学的な仕事は、その後の何世紀にもわたって学者たちに影響を与えました。

アイデア
人々
文化
数学
より明るい未来のために

シャフリヤール 詩がくれる故郷

心と心をつなぐ言葉。



同じ山々。
それでも、
ちがうわたし。

ある詩は、私たちにとって故郷のような感じがして、ずっと心に残ります。そうした詩は、私たちがひとつの場所について語り、思い出や気持ちを分かち合い、たとえ同じ人生を歩んだことがなくても、お互いを理解できるようにしてくれます。これこそが、**シャフリヤール**の詩の魔法です。

セイエド・モハンマドホセイン・ペフジャト・タブリーズィー（1906–1988）は、ペンネーム「シャフリヤール」で知られるイランの詩人です。彼はペルシャ語とアゼルバイジャン語（トルコ系）の両方で詩を書きました。彼の詩は、やさしさ、シンプルさ、そして深い感情で知られています。

すべての人にとっての詩人。
すべての心に響く声。

真の詩人は、日常のささいな瞬間を、いつまでも残る美しさへと変えることができます。

二つの言葉、一つの心

シャフリヤールはペルシャ語とアゼルバイジャン語（トルコ系）の両方で詩を書きました。それぞれの言語が、彼に新しい方法で思い出や愛、自然、そして身近な人々を表現する力を与えました。

彼の詩は、ペルシャの詩の伝統と、私たち一人ひとりの毎日の暮らしを結びつけ、ふつうの人々の声とつながっています。

山に語りかける

シャフリヤールの最も有名な作品の一つ『ヘイダル・ババに挨拶を』は、アゼルバイジャン語（トルコ系）で書かれました。この作品では、シャフリヤールはヘイダル・ババという山に語りかけ、ホシュゲナーブの村とそこで過ごした子ども時代の思い出をたどります。



山々も覚えています。

その山は、物語を一生聞いてくれる聞き手となり、思い出を抱きしめています。

今も心に響く理由

シャフリヤールの詩は、私たちに自分のルーツを思い出させてくれます。それは、私たちが生まれた町やふるさとだけでなく、私たちが愛し、そして私たちを形づくる人々のことです。ふるさとは、いつも私たちのそばにあります。

彼の作品は、詩がシンプルで、正直で、深く人間的であり、今もなお特別なものであり続けることを示しています。

ふるさとは、ただの場所ではありません。それは感情であり、思い出であり、時には詩そのものです。

9月18日

シャフリヤールの命日であり、イランの「ペルシャの詩と文学の日」です。

考えてみよう

- あなたにとって、どのような場所が故郷に感じられますか？
- どんな思い出を大切にしたいですか？
- 詩は、私たちが過去により近づくのを、どのように助けてくれるでしょうか？

あらゆる言語で、彼の言葉は心に届きました。

ペルシャの詩

シャムス・タブリーズィー & モウラヴィー・バルヒー
詩を変えた出会い

一つの出会い。
恐れない問い。
生涯を彩る詩。

1244年、シャムス・タブリーズィーはコンヤにやって来ました。彼とモウラヴィー・バルヒーの出会いは、モウラヴィー・バルヒーの人生と詩の方向性を変えました。

シャムス・タブリーズィーは、恐れを知らない問いで知られる旅する神秘思想家でした。モウラヴィー・バルヒーは、すでに尊敬される学者であり教師でした。二人の対話は、ともに学び、人生を共に生きることにつながりました。



問いの力

伝承では、シャムス・タブリーズィーは、書物の先に目を向け、真に生きる人生にとって知識とは何かを問うよう、モウラヴィー・バルヒーに促した師として語り継がれています。

二つの道、一つの探求

モウラヴィー・バルヒーは長年にわたり学びをもたらし、シャムス・タブリーズィーは挑戦的な質問をもたらしました。二人は共に、友情、信仰、愛、そして真理の探求を探りました。

不在が詩になったとき

シャムス・タブリーズィーはコンヤを一度だけでなく、その後も去りました。1247年頃、彼が最後に姿を消した後、その後の消息は分かっていません。モウラヴィー・バルヒーは、この喪失に応えて詩を書き、その多くは『シャムス・タブリーズィー詩集』に収められています。

受け継がれるもの

二人の出会いは、モウラヴィー・バルヒーの声を形づくる助けとなりました。何世紀もの時を経た今も、彼らの詩は読者に、愛、喪失、友情、そして精神的な成長について深く考えるよう促しています。

いくつかの出会いが
人生の方向性を
変える。

マジードの物語

本が大好きだから

マジードは、思いがけない場所でも物語を見つける、好奇心いっぱいのイランの少年です。近所の食料品店へのいつもの買い物が、一生続く読書好きの始まりになろうとしています。

フーシャング・モラーディー・ケルマーニー著「マジードの物語」をもとに









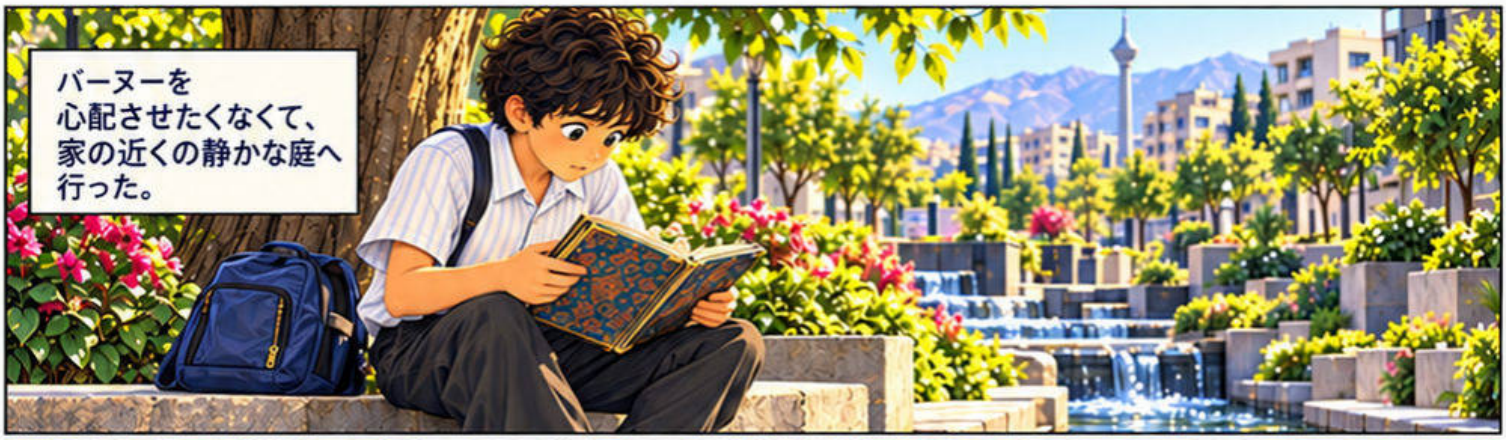



ぼくはターメリックと
砂糖の粉を、そっと
吹き飛ばした。
フッ… フッ…
15
16
17
18
19
20
21
22
それから
読み始めた。
家出をしたい
男の子の話だった。
とうとう家を出たけれど、
どこへ行けばいいか
分からなかった。
それまでに読んだ本
といえば、学校の
教科書だけだった。
でも、その8ページを
読んだら、もっと
読みたくなった。
そして、いちばん
わくわくするところで…
話が途切れて
しまった。
22
この子、
どうなったの？
あの本の続きを
見つけなきゃ。
新鮮・良質・地元の品
おいしい
食べ物で、
みんな笑顔
ナッツ
香辛料
お茶
ドライフルーツ
体にやさしい食べ物
もっと明るい明日へ
ダッ！
ZAMZAM
19


ファルハードさん！
あの本の続きは
どこ？
新鮮・
良質・
地元の品
おいしい
食べ物で、
みんな笑顔
何の本だい？
うちには本なんて
ないよ。
品物を包むのに、
ページを破っていた
本だよ。
読ませてください。
すぐに返すから。
15 16 17 18 19 20 21 22
続きを読んで、
どうするんだい？
家出した男の子が、
そのあとどうなるか
知りたいんだ。
ここは本屋じゃないし、
ぼくも本屋の店主じゃないよ。
あの紙は、角砂糖やお茶、
豆、ターメリックを包む
ためのものなんだ。
お金を払うよ！
使い終わった学校の
プリントも、全部ただで
持ってくるから！
ほかのことを
しておいで。
なかなか説得
できなかった。
でも、ぼくは
あきらめなかった。
15 16 17 18 19 20 21 22


フーーッ!
塩
何をしてるんだ?!
それは塩だぞ!目が痛い!
塩…?
手伝いたかっただけなんだ。
ごめんなさい。目を洗う水を持ってきたよ。
これじゃ、目までしょっぱくなるよ…
バシッ!
バシャッ!
砂糖
それに、ボウルに手をぶつけたのは、ファルハードさんのほうだった。
カラン…カラン…カラン…
銅のボウルでよかったね。
陶器だったら、粉々になっていたよ。


ファルハードさんは、
とうとう折れてくれた。
ここで待ってて。
どこにあるか、
分かるかもしれない。
関係者
のみ
あったよ。
本当に見つかった!
ありがとう!
読んだらすぐに
返すね!
持っていきな、
マジード。
読み終わったら
返してね。
ありがとう!
ビューン!
大切にするんだよ!
あっ、しまった!
バシャッ!


バーヌーを
心配させたくなくて、
家の近くの静かな庭へ
行った。


本を丁寧にきれいにして、
バーヌーにもらった
ハンカチで水気を拭いた。


22ページの次が、
33ページだった。
10ページも…
なくなってる！
22
33


ほかのページを
買った人、
分かりませんか？
ごめんよ、マジード。
分からないんだ。
ファルハードさんは、
もうほかのお客さんの
品物を包むのに
使ってしまっていた。
返す前に、本の題名を
覚えた。
山への逃走


でも、あの本も、
その物語の続きも
忘れられなかった。
のどが渇いた人の唇に、
冷たく澄んだ水が
ほんの少し触れたような
気分だった。
少しだけ味わって、
もっと欲しくなった
人みたいに。

ハラーの森

陸と海が出会う場所

イランの南岸、ペルシャ湾に面した場所に、海に根を下ろして育つユニークな森があります。
それがハラーの森です。これはマングローブの生態系で、潮の満ち引きによって姿を変え、無数の生き物たちのすみかとなっています。

違う水も
同じふるさと♡

小さな生き物たち
大きな物語

1 潮とともに変わる森

潮が満ちると、海水が木々の間を流れ込み、森の多くが水に覆われます。数時間後、潮が引くと、水は引き、暗い泥、からみ合った根、そして小さな生き物たちの足あとが姿をあらわします。



特別な根は、
水の中でも外でも
木が呼吸できる
ように助けています。

知っていた?

ハラー生物圏保護区は、1976年にユネスコの生物圏保護区世界ネットワークに登録されました。

2 隠れた世界

魚やカニ、その他の海の生き物たちが、根のまわりに集まり、身を隠しています。鳥たちは、えさを求めて浅い海にやって来ます。小さな魚たちは、木々の間で身を守りながら育ちます。
この水路では、陸の生き物と海の生き物がともに守られています。
この森は、決してひとりぼっちではなく、みんなの協力によって成り立っています。

多くの生き物たち
のふるさと♡



ハラーの森は、イランの南岸、ゲシュム島の近くにあるホラーン海峡の周辺に広がっています。

3 木だけではない

ハラーの森は主にヒルギダマシ (*Avicennia marina*) でできています。この木々は、海水でも生き延びることができます。塩分の多い水、やわらかい泥、そして多くの木が生きられないような条件でも大丈夫です。根は土をしっかりつかみ、泥をため、陸を守り、海岸を守り続けています。

ヒルギダマシ
(*Avicennia marina*)

より強い海岸
より明るい未来
のために♡

生きたつながり

ハラーは、美しい風景であるだけではありません。それは、生きた仕組みです。陸、海、動物、そして人々がつながっています。この場所を守ることは、より明るい明日のために守ることなのです。


ちがう水辺。
同じわたしたちの
ふるさと。
隠れた
ヒーロー
マングローブ：根を持つ自然のヒーロー！
マングローブは、ただの木ではありません。
自然の守り手です。絡み合う根は、幼い魚や
カニ、鳥たちのすみかになり、水をきれいに
保つ手助けをします。嵐や侵食から海岸を守り、
その土壌には、1ヘクタールあたりで多くの
陸上の森林の数倍もの炭素を蓄えることが
できます。
知ることが
今日をつくり、
より健康な
明日をつくる。
きれいな海
マングローブは
汚染物質を取り除き、
水を健やかに保つ
手助けをします。
安全なすみか
魚、カニ、鳥など、
多くの生き物を
守ります。
強い海岸
根が波の力を弱め、
嵐から岸辺を
守ります。
地球を涼しく
1ヘクタールあたりで、
多くの陸上の森林の
数倍もの炭素を
蓄えられます。
健康な海岸。
もっと幸せな
未来へ。
もっと
マングローブを。
もっと明るい
明日を。

ブーシェフルの息吹

ネイ・アンバーンが空気をお祝いの音に変える。

演奏者が現れる前から、
ネイ・アンバーンの音を耳にしたことがあるかもしれません。
その音は明るく力強く、
無視することができないほど
印象的です。

その音は手拍子や太鼓よりも
高く響き、人を動かし、
どんな場所でもお祝いの雰囲気に
変えてしまいます。

ネイ・アンバーンは、イラン南部のとくにブーシェフルとその周辺の海岸地域で演奏される伝統的なバグパイプです。その名前はペルシャ語の二つの言葉、「ネイ」(意味：笛)と「アンバーン」(意味：袋)を組み合わせたものです。

海からの声

ブーシェフルでは、ネイ・アンバーンが海のそばに暮らす人々のお祝いの集まりに寄り添います。
海とともにある日々の生活の中で、その力強く温かい音色は、人々をひとつの場所に集めます。沿岸の風と打楽器の鼓動に乗って。その音はまわりの人々や海辺のまち全体に広がっていきます。

伝統から現代へ

伝統的な音は過去にとどまるものではありません。そのリズム、表現、イメージは、今も現代のイランの音楽の中に生き続けています。現代のアーティストの中には、バンダリーのリズムに基づく曲をつくる人たちもいます。これは、イラン南部の音楽スタイルで、海や船乗りのことば、メロディー、そして海の光景やヤシの木、お祝いの集まり、楽器から得た要素を取り入れています。

どうやって音が出るの？



01 空気をためる

演奏者が息を吹き込むと、空気が袋にたまります。この袋は、ふつうヤギの皮から作られており、袋の中に空気がたまります。



02 腕で押す

腕で袋を押すと、たまった空気が管の中を一定の勢いで流れます。



03 二本の旋律管

空気は二本の平行な管を通って流れます。それぞれの管にはリードがついていて、一緒に鳴ることで、ネイ・アンバーン特有の力強く生き生きとした音色が生まれます。

**息、圧力、リズム、
そして飾り音が一つになり、
ネイ・アンバーンは命を吹き込まれます。**

海の人々
同じ物語
♡

ゲルーバンド

歌：エルファーン・タフマースビー

ゲルーバンドは、現代のイランのポップスとイラン南部の生き生きとした精神を融合させた曲です。カールーン川、ネイ・アンバーン、ヤシの木、船乗り、アーバーダーン、そして楽しい結婚式の雰囲気からインスピレーションを受けています。

映画

スズメの歌

私たちが抱えているものを描く映画

一羽のダチョウが逃げ出し、物語が動き出す。カリームは仕事場でダチョウの世話をしていたが、鳥が逃げた後に仕事を失ってしまう。娘の補聴器はすでに壊れており、手持ちのお金も少ない。彼はそれを修理するため、テヘランへ向かうことにする。そして予期せず、オートバイのタクシー運転手として仕事を見つける。

彼はオートバイでテヘラン市内を走り、乗客を運び始める。テヘランは、スピードとお金、そしてまだ役に立つはずなのに捨てられた物であふれている。捨てられたドア、アンテナ、金属くず、そして壊れた家電製品が、しだいに彼の家の庭を埋めていく。カリームは物を集めることで価値を見いだしているが、この映画は、そうした持ち物が彼にもたらす負担にも目を向けさせる。

細部に宿る映画

監督のマジッド・マジディーはカリームの変化を直接は語らない。代わりに、くり返し、音、そして対比によって描き出す。テヘランの、カリームの家のそばの開けた風景とは対照的な、絶え間ない交通の音。捨てられた物の重さが、鳥たちの動きと対比されて映し出される。

レザー・ナージーは、視線、落ち着かない仕草、そして短い間（ま）で、同じ緊張感を表現している。カリームは明確な悪役でも英雄でもないが、自分の望みのために、誇りと所有物にからめ取られていく一人の人間として描かれている。

マジディーは、私たちに説明を与えるのではなく、これらの変化に気づくことを託している。私たちは、どれだけのものを抱えていられるのでしょうか。持ち物が、私たちを別の方向へ連れて行ってしまう前に。

ここに注目



- 物がフレームの中でどのように増えていくか。
- 鳥たちがくり返し登場して、自由や脱出をどのように示しているか。
- 都市の雑音と、静けさの瞬間との対比。



作品データ

監督：マジッド・マジディー
イラン・2008年・96分
言語：ペルシャ語、アゼルバイジャン語
主演：レザー・ナージー
受賞：2008年ベルリン国際映画祭
銀熊賞（男優賞）

本との出会い

トゥギャザー・ティー

「よい人生」を決めるのは誰？

二つの文化。
二つの世代。
壊れない強いきずな。♡

母の計画

ダルヤー・レザーイーは、娘の将来について計画を立てています。しかも丁寧に作られたスプレッドシートまであります！ 彼女は、適した結婚相手とはどのような人かを、イラン系アメリカ人の男性たちと比べ、ミーナーに安定した幸せをもたらすのはその結婚だと確信しています。

娘の夢

25歳の誕生日に、ミーナーは縁談の顔合わせや周りの人の期待、ほかの人たちの計画に追い詰められていると感じます。彼女はたとえ簡単でなくても、自分の選択をしたいのです。

二つの世界、一つの物語

別の縁談もうまくいかず、母と娘は一緒にイランを旅します。ミーナーにとっては、子どもの頃に過ごした場所への帰郷です。そこは今、懐かしくもあり、変わってしまったようにも感じられます。その旅は、昔の思い出と新たな問いを呼び起こします。

意見の違いを超えて

トゥギャザー・ティーは、二つの異なる意見についての物語だけではありません。それは、愛、アイデンティティ、家族、そして「よい人生」とはどのようなものかという多くのあり方についての物語です。この物語は、お互いを深く大切に思いながらも、違うものを望む人たちが、どのように向き合い、理解できるかを教えてくれます。



本のデータ

著者： マルジャン・カマーリー
言語： 英語
初版： 2013年
出版社： Ecco / HarperCollins
ページ数： 256
読書のヒント： 保護者や先生と一緒に読むのがおすすめ。

他人の言葉が、自分の考えになるとき

耳にした言葉は、どうして
自分に言い聞かせる言葉になるの？♡

あなたの心の中に
生まれるすべての考えが、
あなた自身から出てくる
わけではないよ。

そして、すべての考えが
とどまるべきものでも
ないんだ。♡

もっと
やさしい心。
もっと明るい
日々を。♡

「気にしすぎだよ。」

言うのにかかる時間は2秒もありません。
何度も聞いているうちに、いつか相手が言わなくてもよくなるかもしれません。あなた自身が、その言葉を自分に言い始めてしまうからです。

こだま

ある文は、起こった出来事について説明しているものもあります。また、あなたがどんな人かを決めつけているものもあります。

「失敗したね」なら、もう一度やってみる余地が残ります。でも「あなたはいつも全部だめにする」は、たった一度の出来事を、あなたという人そのものにしてしまいます。

同じことを繰り返し言われると、その判断はなじみのあるものに感じられます。
でも、なじみがあることと真実であることは別です。

その考えに問いかけよう

心の中で「私は十分じゃない」と思ったとき、いったん立ち止まって、次のことを考えてみよう。

- これは、だれの声に聞こえますか？
- これは、私がどんな人間かを説明しているの？それとも、私が経験した、たった一つの出来事のこと？
- どうすれば、この文をもっと真実に近いものにできるだろう？

「自分はダメな人だ」から「大切に思っていたことで、うまくいかなかった」へ。

「自分は気にしすぎだ」から「それで傷ついた。自分の気持ちは大切にしていい」へ。

自分で選べる

文を変えることは、起こった出来事そのものを消すことにはなりません。でも、たった一つの経験から、あなたのすべてのアイデンティティになってしまうのを止めてくれます。

あなたの心の中の声は、あなたのものです。正直さとやさしさをもって話すように助けてあげてください。

傷つく言葉が続くときは、信頼できる大人に相談しましょう。ひとりで抱え込まなくていいのです。

気にしすぎだよ。

何でも大げさに考えるね。

面倒な人だね。

いつも考えすぎだよ。

何でも台無しにするね。

自分の考えは大切だよ。☆♡

いい考え。
もっと明るい
日々を。

同じ女の子。
新しい
見方で。♡

大丈夫。
そう感じて
いいんだよ。♡

同じ物語。
もっと
輝くあなたへ。♡

ゲームルーム

小さな手がかり、大きな発見。

よい
アイデアは
心を
もっと鋭くし、
毎日を
もっと明るく
してくれるよ。♡

イランを
探検しよう。
見て。
考えて。
ふしぎに思って。
くり返し考えて。
♡

1 隠れた暗号

それぞれの絵は一つの文字を表します。
ヒントを使って言葉を完成させよう。



1. 最初の絵は伝統的なタイルです。
2. 答えは英語の6文字の言葉です。
3. 3番目の文字は果物の絵に対応します。
4. あなたにできることで、イランがあなたを誘うものです。

新しい物語へ
つながる言葉は、
いつも
あなたを待って
いるよ。♡

2 どの影？

この器と同じ形の影は一つだけ。
正しいものを見つけられるかな？



よく見て。
細かいところが
大切だよ。♡

3 秘密の道

宝物につながる、ただ一つの道を見つけよう。



宝物が
待っているよ。♡

違う道。
もっと明るい
地平線へ
♡

ホルムズ

小さな島、
でも大きな物語が
あります。♡

ZAMZAM
旅のスタンプ
ホルムズ・イラン

さまざまな色。
たったひとつの島。
まるごと
驚きの世界です。♡

意外なイラン

海が赤く染まるとき

鉄を多く含む土が生む、自然の驚き。

この小さなイランの島の海岸では、
驚くべきことが起こります。
それは、陸の色が海を染めることです。

鉄を多く含む赤い土が海岸に流れ込みます。
雨や波がその土の細かい粒を運んで、
浅い海に広がると、水はしばらくのあいだ
赤みを帯びます。

でも、赤は始まりにすぎません。

さらに歩いていくと、島の景色は変わります。
崖や谷には、金色、白、オレンジ、紫の色が
あらわれます。これらは、塩、粘土、
そして鉱物を豊富に含む岩がつくり出した
色です。

ここでは、同じ景色がずっと続くことは
ありません。歩くたびに、新しい色が目に
飛び込んできます。一筋の太陽の光が岩の
色を変え、一度の波が海岸線を塗り替えます。

ホルムズは、ただ何かが予想外だと見せて
くれるだけの場所ではありません。行くたびに、
これまで見たことのない何かを、少しずつ
見せてくれます。



ホルムズ

色が物語を
語る場所です。♡

イランを
探検しよう。
見て。
考えて。
感じて。
くり返そう。♡



小さな島、
大きな体験がまっています。♡

景色を変えるだけでなく、
あなた自身を変えて
しまう場所もあります。♡



自然がつくった色のパレット。



持ち場るのは思い出だけ♡



ホルムズの自然のパレット。
眺めて、感動して、砂の一粒までその場所に残そう。♡



新しい場所。
もっと明るい
視点が
見えてきます。♡

色の暗号: ホルムズ

島があなたにメッセージを残した。

ホルムズの風景の中に、
色のついた9つのかけらが隠れています。
それぞれに、一つの英文字が
書かれています。

かけらを見つけて、下の色の順番に
合わせてみよう。その順に文字を
並べると、島からのメッセージが
現れます。

よく見てみよう。
最初の色は紫です。

見つかった?

ホルムズは、忘れられない
一つの色で有名かもしれません。
でも、島の本当の驚きは、
その色の向こうに広がっています。



メフル

مِهر / مُهر

小さな違いが、
大きな違いに。

一つの言葉、一つの世界

想像を超えて、
もっと遠くへ旅しよう。

一つの言葉には、
さまざまな意味や物語、
異なる世界さえ
込められます。

مِهر
メフル
優しさ、愛情、思いやり。

人と人の間にある小さな温かさが
あなたの手の中のメフルに。
いつでも友達を助けたり、
家族への愛を示したり、
そしてちょっとしたことでも
世界をより明るくすることが
できます。

やさしい人が、
より明るい日々をつくる。

مُهر
モフル
印章、スタンプ、しるし。

発音を変えると、同じ3つの
ペルシャ文字が、印章を意味する
言葉にもなります、それは、
何かの出どころや、だれのもので
あるかを示すしるしです。

ちょっとした違いが、
大きな物語に。

مِهر
メフル
月の名前、新しい始まり。

メフルは、イランの暦で7番目の月の
名前でもあります。この月は、学校が
再開し、新しい学年が始まる時期です。

新しいノート。
新しい教室。
新しい友達。
これから起こる新しい物語。

同じ言葉。
新しい始まり。

よき友が、
より明るい
日々を
つくる。

あなたを
もっと輝かせる。
より輝くイラン。

دبیرستان
دخترانه

دختران
آینده‌سازند

歴史
芸術
文化
人びと
アイデア
イラン

一つの言葉、一つの世界

メフル
مهر

温かさに満ちた言葉

ペルシャ語の「メフル」は、
優しさ、愛情、温かさ、そして
太陽を意味することもあります。
世界をもっと明るく感じさせて
くれる言葉です。

مهربان
メフルバーン

優しく、思いやりがあり、
穏やか。「メフルバーン」な
人は、周りの人を安心させ、
大切にされていると
感じさせます。

بامهر
バー・メフル

温かさに満ちている。
声や笑顔、人を迎える
家などを表す言葉です。

مهرورزی
メフルヴァルズィー

行動で示す優しさ。
助け合い、分かち合い、
耳を傾け、相手を
思いやることです。

同じ人々。
もっと明るい
明日へ。

素敵な人々。
美しい場所。
もっと明るい日々。

それぞれ
違う道。
でも同じメフル。

より温かい
人々。
より明るい
世界へ。

小さなメフルが
一日をまるごと
明るくしてくれる。

ナスィール・アル・モルク モスク

光が建築の一部になるとき

モスク以上のものです。まるで光が語りかけるような場所。♡

同じ空の下でより明るい物語が生まれる♡

いくつかの場所は、見る人に美しさだけでなく、もっと深い何かを見せてくれます。シーラーズにあるナスィール・アル・モルク・モスクは、まさにそんな場所の一つです。ここは、光、色、そして静けさによって、まるで物語がゆっくりと語られるように、その姿を少しずつ現していきます。

少しずつ現れる美しさ

中庭から見るモスクは、落ち着きがあり調和のとれた姿をしています。中に一歩足を踏み入れると、魔法のような光景が広がります。色とりどりの窓ガラスがはめ込まれた7つの木の扉から差し込む光が、床や壁、柱に、赤・青・緑・ピンク・黄色の模様を映し出します。

色。文化。人々。よりやさしい明日のために。♡

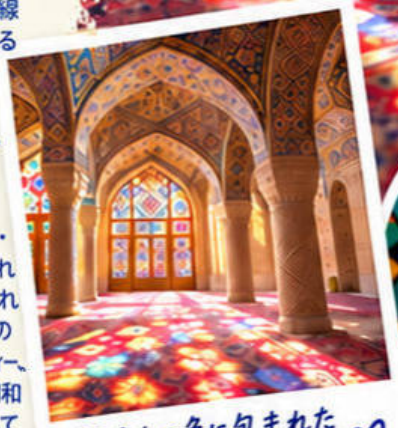
芸術のモザイク

ここにあるすべての細部が、物語を伝えています。タイルのアーチや曲線を描く柱の模様から、壁一面に広がる花のデザインまで。この色彩は単なる飾りではなく、建物そのものの一部であり、建築の中に息づく芸術なのです。

シーラーズに建てられた

このモスクは、ミールザー・ハサン・アリー・ナスィーロル・モルクの依頼により建てられました。1876年から1888年の間に建てられました。ガージャール朝時代のイラン建築の傑作であり、タイル細工、石、れんが、カリグラフィー、木の格子、複雑な模様、そして見事に調和した色とりどりの窓ガラスが組み合わされています。

光はすべてを芸術に変えます。♡



何千もの色に包まれた光の世界。♡



心をひきつける美しい細部。♡



終わりのない模様。♡

写真の向こうに目を向けて

今日、この礼拝堂は写真で有名ですが、その美しさは時間とともに姿を変えます。太陽の光が入る向きや強さ、そして時間の流れによって、床には常に新しい模様が現れます。光はただ建物を飾るだけでなく、建築の仕組みを明らかにし、この建物がどのように作られているのかを伝えてくれるのです。

いまも輝きを放つ歴史のある場所。♡

壁のない博物館

光がすべてを変える

ナスィール・アル・モルク・モスクでは、同じ瞬間は二度とない。

このモスクの美しさは、いつも変化し続けています。太陽が空を旅するにつれて、光がさまざまな角度から差し込み、新しい色、新しい模様、新しい雰囲気を生み出します。ここは、時間が目に見える形になる場所です。

同じ場所、違う時間、違う光、違う魔法。♡

違う光。もっと明るいあなた。♡

一日の移り変わり

モスクが、朝から午後までどのように変化するか見てみましょう。



日の出 柔らかく穏やか

朝 明るく色鮮やか

正午 鮮やかな模様

午後 柔らかく温かな光

自然を生かした設計

西側の礼拝堂は、木の扉と色ガラスの窓でできています。東を向いているため、朝の太陽の光が直接差し込み、部屋いっぱいに色とりどりの模様が広がります。



東向きの扉が、朝の光を迎える。

「ここで光は、目で見るだけのものではありません。心で感じるものです。」

役割を持つ色

色ガラスは、太陽の光をやわらげ、美しい色を広げます。変化し続ける光は、落ち着いた雰囲気をつくり、考えたり祈ったりするための空間を生み出します。



心をひきつける細部。♡

光はすべてを芸術に変える。♡

みんなのための場所

今日、世界中から訪れる人々がこのモスクを見に来ます。この建築は、芸術、幾何学模様、職人の技、そして光がどのようにして歴史ある建物を、みんなで分かち合える文化的な体験へと変えることができるかを教えてくれます。

模様の中に終わりはない。

歴史は今も輝を続ける場所。♡

イランでつくられたもの

船を超えた存在

今も海を行く、受け継がれた技

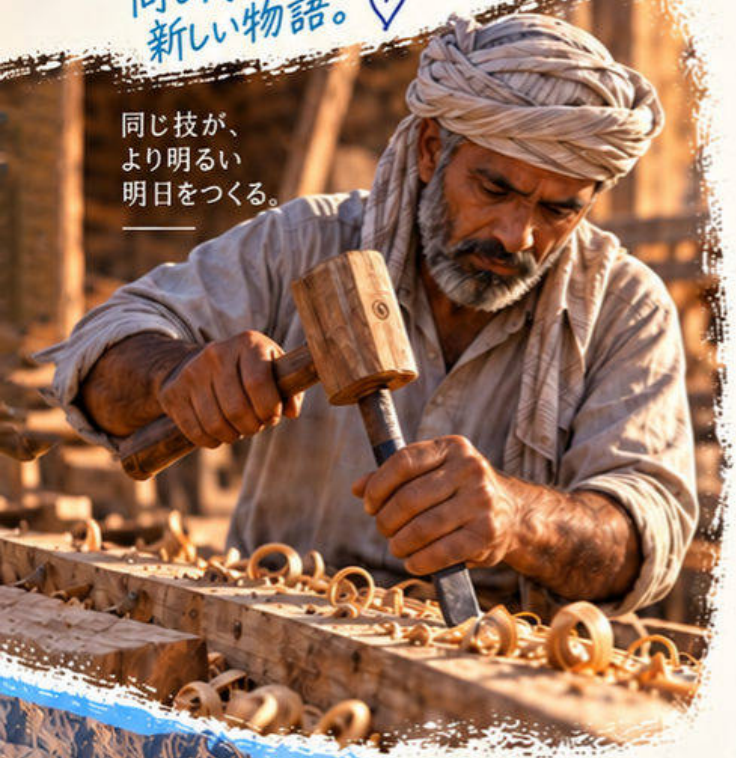
ペルシャ湾のあたたかな海岸に沿って、熟練した職人たちが何世紀にもわたりレンジ船をつくってきました。これらは単なる船以上の存在で、人々をつなぎ、自然をもたらし、海によって形づくられた知識を受け継ぎ、手仕事でつくられ、世代から世代へと受け渡されてきたものです。

人々
海を通して地域社会をつなげる。

自然
風、波、海岸の暮らしに合わせてつくられている。

知識
海によって形づくられた技が世代から世代へと受け継がれる。

同じ海。新しい物語。♡



同じ技が、より明るい明日をつくる。

時を超える工芸の道具

シンプルでありながら精巧な道具を使い、職人たちは一つ一つの木片を手作業で形づくります。手斧、のみ、手のこぎり、そして伝統的な測量用の縄。これらは昔から変わらない道具ですが、経験を積んだ職人の手によって、特別なものが生み出されます。



手斧（形を整える）　手のこぎり（切る）　のみ（削る）　測量用の縄（正確に測る）

海に合わせて選ぶ木

職人たちは、海の厳しい環境に耐え、求められる性能を持つ、丈夫な木を選びます。使う木の種類によって、船のさまざまな部分に適した特徴があります。



チーク（サーイ）
耐久性があり、水に強い木。



コナール
特定の部分に使われる地元の広葉樹。



ケラト
従来の職人たちが使ってきた強くて丈夫な地元の木。



さまざまな旅路。同じルーツから。♡



新たな地平線へつながる生きた遺産。♡

「レンジ船は、木でつくられた単なる船ではありません。海とともに築かれた経験、伝統、そして海を深く理解する心そのものです。」

2011年、ユネスコは、ペルシャ湾における伝統的なイランのレンジ船の建造と航海に関する技術を、緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧に登録しました。

イランが築く、もっと大きな地平線

現代の造船。より力強い明日へ。

貨物船から現代的な商業船まで、イランの造船所は野心的な計画を現実に変えています。熟練したエンジニア、高度な技術、そして海の伝統に深く根ざした力を活かし、イランは港をつなぎ、貿易を支え、海の向こうに新たな地平線を切り開く船を建造しています。



設計
アイデアを形に

船舶設計者やエンジニアは、最先端のソフトウェアを使って、船体の形からエンジンシステムまであらゆる細部を設計し、安全性、効率性、性能の向上を目指します。



建造
熟練の技が、前進を生む

鋼板は切断され、成形され、精密に溶接されます。巨大なセクションを一つひとつ組み立てて、造船所で一つの船に仕上げていきます。イラン南部の沿岸にある造船所で、一つひとつの工程が行われています。



出航
より力強い明日へ

完成後、それぞれの船は、国内外の海域で貨物を運び、港をつなぐために、出航前に入念な試験を受けます。

船をつくるだけじゃない。
つながりを、
チャンスを、
そしてもっと強い
イランを築く。♡

主なポイント

- **貨物船** 世界の貿易をつなぐ
- **タンカー** エネルギー輸送を支える
- **海洋構造物** 海上での作業を支える
- **熟練の人材** 技術者、専門スタッフ、職人



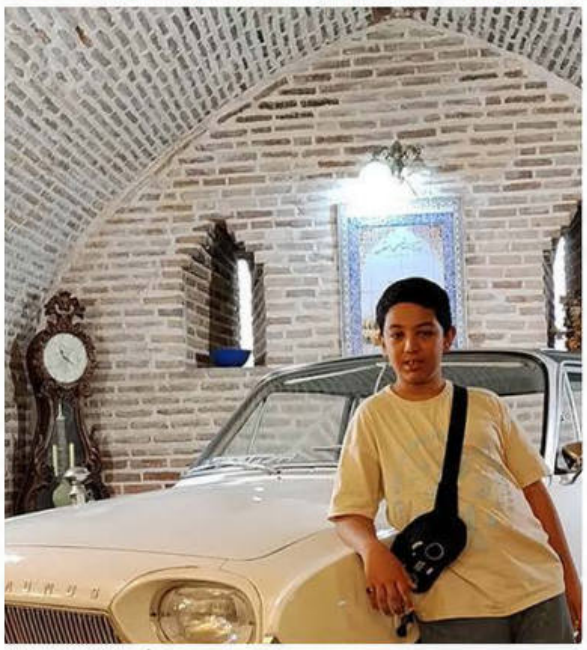
より強い産業で
より明るい未来へ
新たな地平線を

イランの造船業

人とアイデア、
そして機会をつなぎ、
より明るい未来へ。

イランの声

3人の若者。
3つの個人的な物語。
ここにある、ありのままのイラン。♡



物語の中に
飛び込んでいこう。

サッジャード・マスウーディー
— イラン・マシュハド

タイムマシンの中でランチ

ランチの約束をしていました。でも、その時間については誰も言いませんでした。

バーバー・ゴドラトさんのお店は、ただのレストランではありませんでした。そこは時をさかのぼるような場所でした。工具の棚や伝統的な店、そしてヴィンテージの車がありました。鍵を回すと、まるで別の世紀にタイムスリップしたような気がしました。その瞬間、私は別の時代の中にいるようで、過去と現在が共に存在していることに気づきました。

イランは、このような場所にあふれています。過去と現在が共に生きている場所です。ここでのすべての体験はとてもシンプルな食事ですが、それがどのように人々をつないでいるのかを思い出させてくれます。

さまざまな人々
同じふるさと
♡

ヌーラ・サーダート・ハヴァーイー
— イラン

眠らずに過ごした夜

ある夕方、父が私を見て、こう言いました。
「早く寝ちゃだめだよ。夜中の冒険に行くんだよ。」

父は行き先を秘密にしていました。夜が更けるにつれて、ジャムカランの、緑のミナレットとターコイズブルーのドームが見えてきました。それがすべての驚きでした。

私たちはその聖なる場所で、一緒に祈り、話をし、夜明けを見つめました。あの穏やかな場所で、私は心の中に希望を感じました。

あの夜は、計画していなかったものの中に、最も美しい瞬間のいくつかを私に教えてくれました。予定外のことは、今ここにいるときに、あなたが愛する人たちと、その心に触れる場所で起こります。

『旅の思い出は、
いつまでも心に残る。』♡



人々
場所
心に残る瞬間
私たちを
つくるもの
♡



アイサン・マルドゥーキー
— イラン

山が教えてくれたこと

その朝、母は「ハイキングに行くよ」とは言いませんでした。ただ私に袋を手渡して、「さあ、行きましょう。見せたいものがあるの」と言ったのです。

私たちは岩だらけの道を歩き、ある小さな緑の植物のところで立ち止まりました。「これはカンガルよ」と母は言いました。山に自生する野生の植物です。

母は、地面からどのようにやさしく採るのか、そして後に残るもののために小さなものは残しておくことを教えてくれました。

その日、私は自然は、そのままの姿で注意深く見つめる人、敬意を持つ人、そしていつ持っていくべきで、いつ残すべきかを知っている人たちに、その宝物を与えてくれるということを学びました。山は私に、忍耐、感謝、敬意、そして私たちのまわりにある小さな素晴らしさに気づくことを教えてくれました。

『山は、誰にでも秘密を明かすわけではない。』♡

同じルーツ
より高い夢
♡

海があなたを選ぶ

ハミード・ジョウハリーにとって、船に乗ることはただの仕事ではありません。愛によって形づくられ、距離によって鍛えられ、そしていくつもの海を越えて測られる人生です。

ハミード・ジョウハリーは2002年に、海での専門的なキャリアを始めました。操機手として乗り込み、船の機械の潤滑やメンテナンスを手伝っていました。経験を積むにつれ、さまざまな技術的・機械的な役割へと進んでいきました。その間、当直担当者としての期間もありました。4時間の当直では、エンジンの一定のリズムに囲まれた船の下の甲板で、ひとりで過ごすことがよくありました。しかし、その孤独が彼を陸へ戻らせることはありませんでした。

> 「海で働くには、愛が必要です」と彼は言います。「それは、誰かと人生を分かち合う相手を選ぶようなものです。本当の愛でなければ、長くは続きません。」

ジョウハリーは一度、海を離れたことがありました。工場での管理職の仕事に就き、後にはデスクワークも経験しました。しかし、どちらも自分には合いませんでした。やはり陸の生活は自分の居場所ではないと感じ、再び海に戻りました。

> 「やめてみましたが、耐えられませんでした」「やはり海に戻ったのです。」

国際的な航海は、異なる文化の人々と共に生き、働く方法も彼に教えてくれました。長年にわたり、ロシア、インド、シンガポール、ドイツ、スウェーデン、イギリス、韓国、そしてアフリカの国々など、世界のさまざまな地域からの乗組員たちと友情を育みました。そのような友情の多くは、航海が終わった後も、長く続いています。



陸が見えなくなるとき

旅の始まりで、ロープが解かれ、船が港をゆっくりと離れていくときは、ジョウハリーにとって特別な瞬間です。やがて海岸線が小さくなり、ついには見えなくなります。そして船は、水があらゆる方向に広がる、巨大な円の中心にいるように感じられます。まさに、すべての方向を指し示すコンパスの中心に立っているようです。

> 「それは、コンパスが円を描いているようなものです」と彼は言います。「どれほど大きな円になっても、その中心点は変わりません。そこに、いつも船はいます。」

20年以上にわたる嵐、そして距離や孤独の中での何度もの機関室の当直を経験した今でも、彼の答えは変わっていません。

> 「海への愛こそが、船員にとっての最初の条件です。これがなければ、誰も本当の船員にはなれません。」

海と生きる

海で暮らせますか?

異なる人々 同じ海 より勇敢なわたし

ハミード・ジョウハリーにとって、船乗りであることはただの仕事ではありません。愛するものを選び、距離によって試され、海を越えて測られる人生なのです。

彼の最初の大きな航海は、イランからキューバ、ブラジル、そしてアルゼンチンへ渡り、その後に帰国するものでした。旅は約4か月続きました。多くの初心者の船員が船酔いに苦しむ中、彼は船酔いをしませんでした。この航海の始まりは、五つの大陸を越えて旅をし、さまざまな人々とつながるという、船員としてのキャリアにつながるものでした。

それはただの仕事以上。♡

船員への第一歩

- **学生** — 海洋に関する基礎を学び、入学試験を受けます。
- **実習生** — 士官候補生として教室での学びと、実際の海での経験を組み合わせます。
- **乗船実務** — 必要な乗船期間を完了し、船上での実践的なスキルを身につけます。
- **資格試験** — より高い責任を担うために、専門の試験に合格します。
- **次の職位** — 経験・規律・チームワークによって、より高い職位へ昇進していきます。

同じ海が新たな地平線へ連れて行ってくれる♡

二つのチーム、一つの船

甲板部

航海・積み荷の作業、そして船全体の運航を担当するチームです。

- 船長
- 一等航海士
- 二等航海士
- 三等航海士
- 甲板員

機関部

船のエンジンと機械システムを管理し、安全に運転するチームです。

- 機関長
- 一等機関士
- 二等機関士
- 三等機関士
- 操機長
- 操機手
- 機関員





船員の見分け方は?

船員たちは時々、すぐに分かる目印で冗談を言います。コーヒーのカップ、パイプ、帽子、そして何か月も家を離れたことを物語るひげです。


帽子


マグカップ


パイプ


ひげ

小さな目印に大きな物語。♡

かつて → 現在

かつて

以前は、無線通信士が無線機器を使い、モールス信号で世界の外にいる人々と連絡を取っていました。



さまざまな道具。

現在

現在では、衛星システムによって、乗組員はほぼ地球上のどこからでも人々と連絡を取ることができます。



同じ人間の必要性。つながり続けたいという思い。

「技術はコミュニケーションを簡単にしました。でも、この仕事の本質は変わっていません。責任、チームワーク、長い別れ、そして何度でも海へ呼び戻されるほどの、海への強い愛です。」



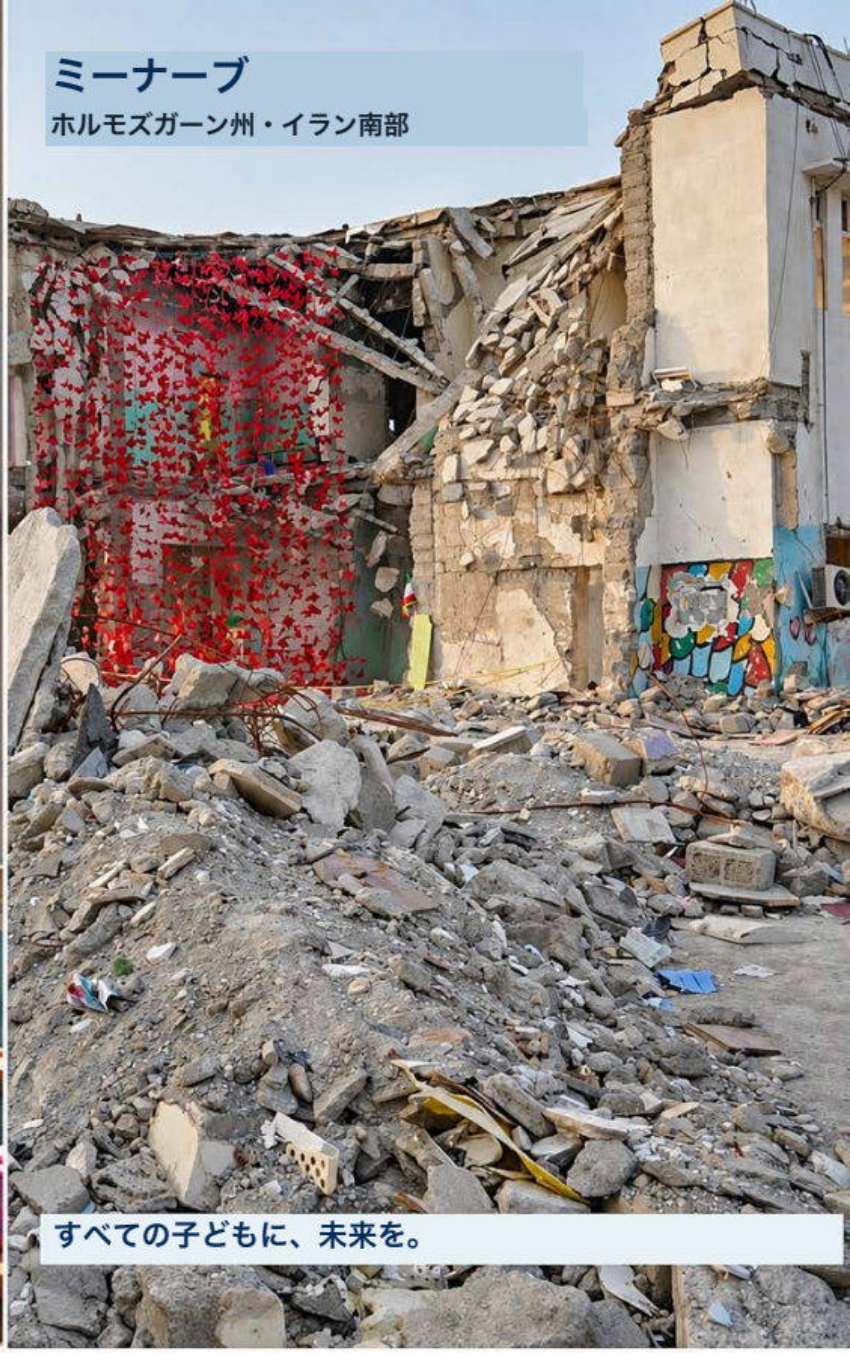
ふるさとは、場所ではなく地平線。♡

ミーナーブ

鳴らなくなった学校の鐘

教室は、問いかけ、友情、夢のための場所であるべきです。戦争のための場所ではありません。





ミーナーブ
ホルモズガーン州・イラン南部

すべての子どもに、未来を。

明るい町、希望に満ちた人々

ミーナーブは、イラン南部の美しい海辺の町です。優しい人々、ヤシの木、そして大きな夢があります。学校には、好奇心に満ちた子どもたち、笑い声、希望があふれています。

何が起きたのか

2026年2月28日、ミーナーブのシャジャレ・タイイェベ小学校にミサイルが命中しました。子どもたちは、学び、未来を築いている最中でした。約120人の子どもを含む150人以上が死亡し、多くの人が負傷しました。

国連の調査官は、アメリカ合衆国軍に責任があるとする合理的な根拠を認め、この攻撃は戦争犯罪に当たると結論づけました。

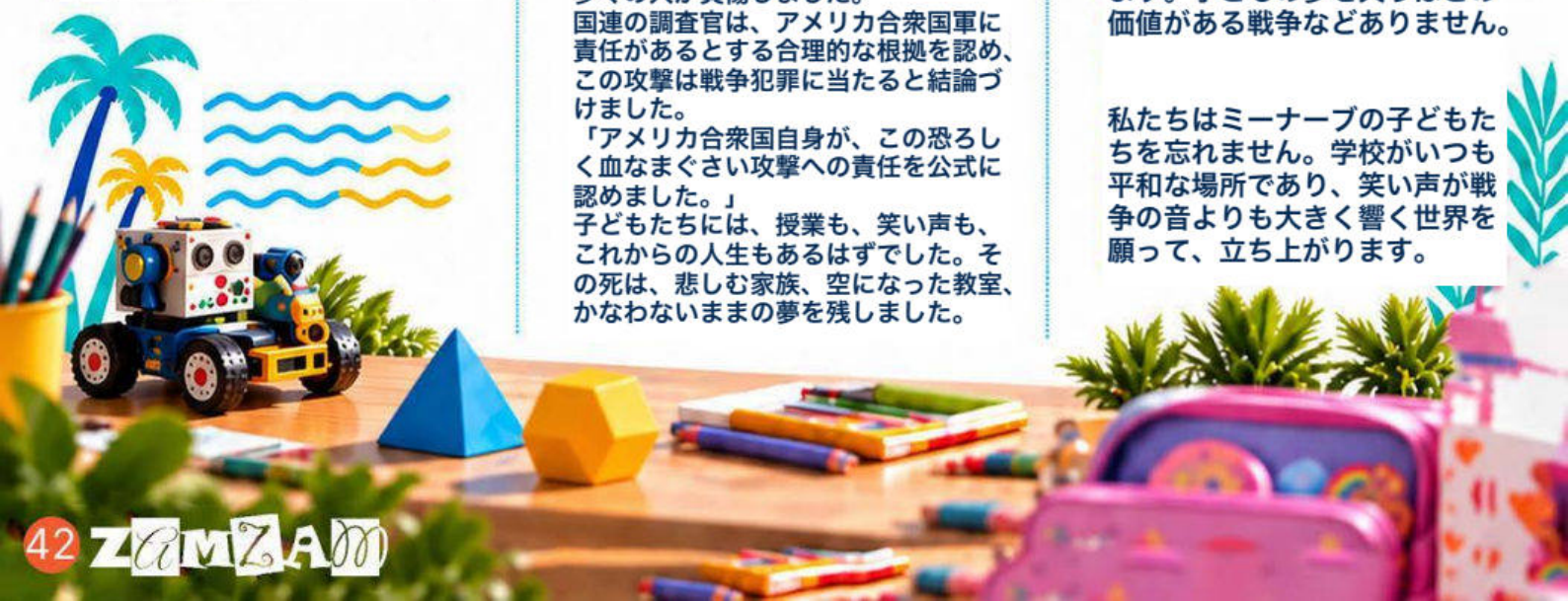
「アメリカ合衆国自身が、この恐ろしく血なまぐさい攻撃への責任を公式に認めました。」

子どもたちには、授業も、笑い声も、これからの人生もあるはずでした。その死は、悲しむ家族、空になった教室、かなわないままの夢を残しました。

子どもたちは攻撃の標的ではありません

学校は、守られるべき場所です。すべての子どもには、安全に過ごし、学び、友だちをつくり、よりよい未来を築く権利があります。子どもの夢を失うほどの価値がある戦争などありません。

私たちはミーナーブの子どもたちを忘れません。学校がいつも平和な場所であり、笑い声が戦争の音よりも大きく響く世界を願って、立ち上がります。



クーヘスタク

祝宴が途絶えた結婚式

本来は、色にあふれ、家族と喜びに満ちた夜になるはずでした。

シーリーク郡・ホルモズガーン州・イラン南部



祝福の夜

2026年9月1日、イラン南部の小さな町クーヘスタクで、家族たちがホルムズ海峡の地域にあるシーリーク郡に集まり、結婚式を行いました。

家は準備を終え、音楽が始まり、子どもたちが家族と一緒にやって来ました。みんなが、花嫁と花婿を待っていました。

それは、本来なら笑顔と新しい思い出に満ちた夜になるはずでした。

喜びが死に変わるとき

2026年9月1日、アメリカ合衆国の軍がクーヘスタクの家を攻撃しました。家族たちが結婚式を祝っていた最中でした。この攻撃で5人が死亡し、数十人が負傷しました。

家族たちは、新たな始まりを祝うために集まりました。しかしその代わりに、大切な人たちを失いました。祝うべき場が、残された家族にとって長く続く深い悲しみの思い出となってしまいました。



結婚式に込められたもの

世界のどこでも、結婚式の服、音楽、伝統はそれぞれ異なって見えるかもしれません。しかし、すべての結婚式に共通する意味は同じです――愛し合う二人が家族や新たな始まりとともに祝うことです。

すべての祝いの場は、安全な場所であるべきです。すべての家族が、恐れることなく集まることができるべきです。


ZAMZAM
旅は、ここで終わりません。
ペルシャ湾は、歴史、勇気、創造力、そして日々の暮らしが
形づくる世界を見せてくれました。
これからも問いかけ、イランを発見し、
地平線の向こうに目を向けていきましょう。
同じ地平線、
もっと大きな夢